

八尾市情報発信コーナーの活性化による 市民の関与を高める域学連携プロジェクト



#広報機能の強化 #市民の健康増進 #学生の成長促進

目的

行政と市民とが一体的に地域の活性化に対する意識を高めること、学生が中心となって企画したイベントを通じて、市の情報発信コーナーがその中核として認知・活用されること



活動の概要

- **主な連携先**
八尾市政策企画部広報・公民連携課 藤木得氏・杉谷拓海氏／関西大学学生 小山夏波(文学部4年生)・池田楽々(文学部4年生)・清水翔(文学部3年生)・福中晴香(文学部3年生)・新谷遼平(商学部3年生)
- **活動地域**
八尾市情報発信コーナー(八尾市内の大型商業施設アリオ八尾内)
- **活動期間**
2022年6月～2023年3月
- **活動資金**
9月までは自己負担、10月以降は地域連携活動に対する補助事業

連携にいたる経緯

当方が吹田市との連携に関するサービスラーニング科目(高年次共通教養科目)を実施していたこと、八尾市からは地域連携センターに協力要請が来ていたこと、双方のニーズが合致し、参画したい学生が集まったことから、活動を行うはこびとなった。



活動内容

まず、対象となる八尾市情報発信コーナー(アリオ八尾内)がどのような場所・環境で、どのような人たちが訪れているのか等の情報を集めるべく、現地調査や簡単なアンケートなどを実施した。次いで、誰を対象としてどのような企画を行うことができるのかを検討した。八尾市政策企画部広報・公民連携課の確認・了承を得る必要があるため、検討内容を適宜報告し、実現可能性の問題等から何度も見直ししながら企画案を固めていった。最終的に、情報発信コーナー内の情報を活用して、健康に関するキーワード集めを行うことに落ち着いた。継続性を持たせるために単発イベントではなく、12月～2月までの3ヶ月間、3週間に2回ずつ出題し(ポスター等を作成・展示し)、全てのキーワードを繋ぐと1つの言葉が完成するというしかりに仕上げた。また、この間、2022年度の「<地域で活動する若い力>奨励賞プレゼンテーション審査会」や「吹田市・関西大学連携推進協議会」で発表を行う等、積極的に活動内容や成果、自分たちの成長について発信してきた。

活動の成果

- 実際の地域社会の課題解決に関与(企画から実施まで)し、市の活性化に貢献出来た
- 学生自身が直接担当者とのやり取りを通じて市政について理解を深めることが出来た
- 専攻や学年の異なる学生同士の深い交流・対話を通じて、人間的に大きく成長した

今後の課題・目標・展開の可能性

- 活動の継続性が最大の課題
- ゼミ・研究室単位ではない全学横断的に学生が関われる地域連携・活性化推進の仕組み
- 生徒・学生の学びと成長の促進に関わる教育分野での連携(特に、高大・大社連携)

教育推進部 教授 山田 剛史 Yamada Tsuyoshi



大阪生まれ。神戸大学大学院博士後期課程修了後、島根大学講師・准教授、愛媛大学准教授、京都大学准教授を経て、2020年10月より現職。専門は高等教育開発・青年心理学。学校(子ども)から社会(大人)へと円滑に移行し、個人と社会のウェルビーイングを高めるための学校教育が研究テーマ。詳細はyamatuyo.comにて。



連携先からの一言

情報発信コーナーが持つ課題へのアプローチをゼロから考えるのは、苦勞したのではないかと思います。学部・学年の違う学生達が徐々に同じ方向を向いて、企画に取り組む姿を見て、成長を感じることができました。

本市としては、学生のフレッシュな発想を取り入れながら、企画を進めることができ、行政だけでは手が届かない層にも、アプローチすることができたのではないかと感じています。(八尾市 政策企画部 広報・公民連携課)